

## 児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 8年 1月 9日

公表:令和8年 1月 9日

事業所名:ブロッサムジュニア高松西

		チェック項目	はい	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	0	・利用定員はスペースに見合った人数としている。子ども同士のトラブルや気持ちの高ぶりが見られた際には、静養室への移動や落ち着けるグッズを活用するなど環境面での配慮を行っている。
	2	職員の配置数は適切である	7	0	・職員同士が声を掛け合い、子ども一人ひとりの様子を共有しながら支援を行っている。活動内容や子どもの特性に応じて職員の配置を工夫し、安全面や見守り体制の充実を図っている。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7	0	・集団療育室はフラットな絨毯張りとなっており、転倒防止や移動のしやすさに配慮している。また、布テープを使用して活動ごとの場面分けを行い、子どもが視覚的に分かりやすい環境づくりを心がけている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7	0	・生活空間は清潔を保ち、子どもが心地よく過ごせる環境づくりに努めている。また、活動内容に応じて机を移動させるなど、空間を工夫し、落ち着いて過ごせるよう配慮している。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7	0	・定期的なミーティングや日々の申し送りを通して、現場の気づきや意見を出しやすい環境づくりを心がけ、業務改善につなげている。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	0	・アンケート調査を通して保護者の意向や満足度を把握し、結果を職員間で共有・検討することで、日々の支援や業務改善に活かしている。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	0	・ブロッサムジュニア公式HPとInstagramで公開。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5	2	・現時点では第三者による外部評価は実施していないが、職員間での自己評価や振り返りを通して課題の把握に努めている。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	0	・職員の資質向上を目的として、研修の機会を確保している。集合研修に加え、オンライン研修も取り入れることで、業務状況に応じて参加しやすい体制を整えている。研修内容は日々の支援に活かせるよう、職員間での共有にも努めている。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7	0	・アセスメントを行い、状況や特性、保護者のニーズを把握した上で、児童発達支援計画を作成している。作成後も必要に応じて見直しを行い、適切な支援につなげている。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7	0	・アセスメントシートを活用し、子どもの適応行動や成長の様子、課題について把握している。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7	0	・児童発達支援ガイドラインに基づき、「発達支援」「家族支援」「地域支援」から必要な項目を選択し、子ども一人ひとりに応じた具体的な支援内容を設定している。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7	0	・児童発達支援計画に基づき、子どもの状況に応じた支援を行っている。支援内容は職員間で共有し、計画に沿った一貫した支援に努めている。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	7	0	・活動プログラムの立案はチームで行っており、専門職の視点を活かした内容づくりに努めている。作業療法士が運動面の集団活動を担当し、クッキングや工作などの生活・創作活動については保育士が中心となって考案するなど、役割分担を行いながら子どもの発達や特性に応じたプログラムを提供している。
15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	0	・子どもの興味・関心や発達段階、支援目的に応じて内容を見直している。一方で、ねらいが明確な活動については、継続して取り組むことも効果的であると考え、目的に応じて柔軟にプログラムを構成している。	

適切な支援の提供	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	7	0	・子ども一人ひとりの発達状況や特性、体調や気持ちの変化に配慮しながら、個別活動と集団活動を組み合わせた児童発達支援計画を作成している。無理のない参加を大切にし、成功体験を積み重ねられるよう支援している。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	1	・支援開始前に職員間で打合せを行い、その日の支援内容や子どもの体調・特性を踏まえた関わり方、役割分担を確認している。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	1	・支援終了後に職員間で打合せを行い、その日の支援内容や子どもの様子について振り返りを行っている。気付いた点や課題を共有し、翌日以降の支援内容や関わり方の改善、安全面の向上につなげている。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	0	・日々の支援内容や子どもの様子について記録を取っている。記録を職員間で共有し、支援の振り返りや検証を行うことで、より適切な支援や継続的な改善につなげている。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7	0	・定期的にモニタリングを実施し、子どもの成長や課題、支援の状況を確認している。
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	1	・担当者会議には、日頃からその子どもの状況を把握している職員が参画している。職員一人ひとりがチーム意識を持ち、子どもの様子や支援の状況を適切に伝えながら、連携を図っている。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6	1	・必要に応じて情報共有を行い、支援につなげていく。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	7	0	・現在該当者はいないが、必要に応じて連携し対応していく。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	7	0	・現在該当者はいないが、必要に応じて連携し対応していく。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	1	・保護者の要望があった際には、関係機関と情報共有を行い、円滑な移行につながるよう対応している。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	2	・保護者の要望があった際には、関係機関と情報共有を行い、円滑な移行につながるよう対応している。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	1	・必要に応じて情報収集を行い、参加について検討していく。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	5	・現在、交流は行っていないが、今後必要に応じて交流の機会について検討していきたいと考えている。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	3	4	・現在は参加の機会が限られているが、今後は必要に応じて情報収集を行い、参加について検討していく。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	0	・送迎時やHUG等を活用し、日頃から保護者と子どもの状況を伝え合い、発達や課題について共通理解を持てるよう努めている。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	4	3	・必要に応じて開催の検討をする。

保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	1	・契約時に必ず行っている。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7	0	・児童発達支援計画について保護者に説明し、内容に同意を得たうえで署名をいただいている。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	1	・保護者からの相談に耳を傾け、状況に応じた助言や支援を行っている。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7	0	・年一回、保護者との交流会を主催している。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6	1	・保護者様より相談や申入れがあった際は、管理者に報告の上、迅速で適切な対応に努めている。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	1	・SNSを活用して活動の概要を発信している。行事予定や日々の活動の様子については、HUGを通じて保護者と共有している。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	7	0	・個人情報の取り扱いに十分注意し、適切な管理と職員間での意識共有を徹底している。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	1	・子どもの特性に配慮し、視覚的ツールを活用するなど、思いを表出しやすい環境づくりに努めている。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	5	・現在、地域住民を招待する行事の実施には至っていないが、地域との関わりについて、状況や必要性に応じて検討していく。
	非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7	0
42		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	0	・定期的に避難訓練を実施し、災害時に備え避難経路の確認をしている。
43		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	7	0	・保護者からの聞き取りをもとに安全に配慮した対応を行っている。
44		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	1	・現在、医師の指示書はないが、利用者ごとの食物アレルギーについては把握しており、保護者からの聞き取りをもとに安全に配慮した対応を行っている。
45		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	0	・ヒヤリハット事例を記録し、事業所内で共有することで、事故防止や安全意識の向上につなげている。
46		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	0	・虐待防止対策として指針を定め、虐待防止に関する研修を実施している。職員の意識向上を図り、適切な支援に努めている。
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6	1	・身体拘束指針を定め、重要事項説明書にも記載し、契約時に保護者に説明を実施。また年に一度、身体拘束に関する研修を実施している。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。